

しらおか歴史物知りシート No.3-3

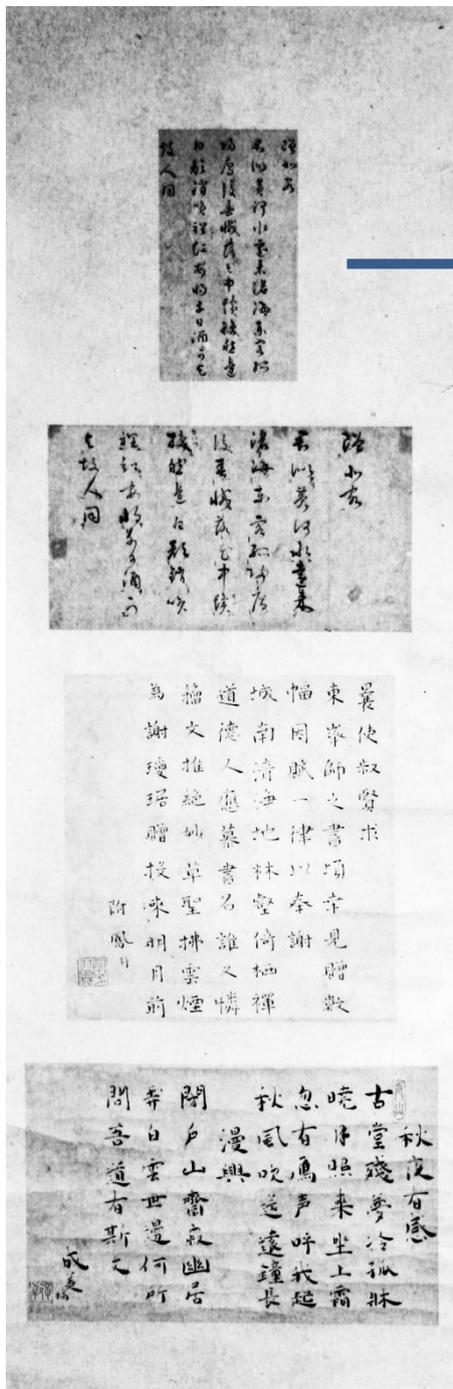
こもれびの森・歴史資料展示室

【新井白石自筆漢詩と関連資料】 18世紀～19世紀

野牛村の名主家に伝わる1巻の掛軸に4編の詩稿が表装されています。最上段は新井白石自作自筆の「贈北客（北客に贈る）」という五言律詩、2段目は同じ詩を写し返り点を付したもの（筆者不詳）です。

3段目は、附鳳という人物の「曩使叔賢求（曩 叔をして賢を求めしむ）」と題する前文付の五言律詩です。附鳳という人物と白石との関係は不明ですが、新井家の一族と思われるます。

4段目は、白石の子孫新井成美の詩で「秋夜有感」という七言絶句と「漫興」と題する五言絶句です。詩の読み方は何通りもありますので、お示しするもので決まりということではありません。ひとつの参考としてご覧ください。



贈北客
君似黃河水 遠來滄海東 客孤
歸雁後 春減落花中 鬢換愁邊
白 顏銷笑裡紅 安將千日酒 可與
故人同

贈北客
君似黃河水 遠來滄海東 客孤
歸雁後 春減落花中 鬢換愁邊
白 顏銷笑裡紅 安將千日酒 可與
故人同

北客に贈る
君は似る黄河の水
遠く来たる滄海の東
客は孤り帰雁の後
春は減ず落花の中
鬢は換る愁邊の白
顔は銷ゆ笑裡の紅
いづくんぞ千日の酒を
將りて故人と同じう
すべき

【意識】
北からの客人に贈る
君は黄河の水が流れる
ように遠く青い海の東に
来た。
雁が北国へ帰り、花が散
り春が過ぎて行くように、
私の鬢も白く変わり、笑顔
の裏に秘めた情熱も失せ
てしまった。
「千日酒」を飲んだとい
う故の人と同じように、
どうして君と酒を酌み交
わさずにいられようか。

新井白石自筆漢詩
(市指定有形文化財・歴史資料)

曩使叔賢求

東峯師之書頃幸見贈數

幅因賦一律以奉謝

城南清淨地 林壑倚栖禪

道德人應慕 書名誰又憐

籀文推絕妙 草聖拂雲煙

為謝瓊琚贈 投來明月前

附鳳拜

曩叔をして賢を求めしむ

東峯に師の書を頃しんで幸見す 數幅に因みて一律を賦して贈る もつて奉謝す

城南は清淨の地にて 林壑は栖禪に倚す

道德人應に慕うべし 書名誰かまた憐む

籀文絶妙に推し 草聖は雲煙を拂う

謝して瓊琚を贈り 投じ來たる明月の前

附鳳拜

曩使叔賢求
東峯師之書頃幸見贈數
幅因賦一律以奉謝
城南清淨地 林壑倚栖禪
道德人應慕 書名誰又憐
籀文推絕妙 草聖拂雲煙
為謝瓊琚贈 投來明月前

附鳳拜



附鳳の詩 (3 段目)

秋夜有感
古堂殘夢冷孤牀
曉月照來坐上霜
忽有鴈聲呼我起
秋風吹送遠鐘長
漫興
閉戶山齋寂幽居
弄白雲世邊何所
問吾道有斯文

成美稿

成美の詩 (最下段)

秋夜有感

古堂殘夢冷孤牀

曉月照來坐上霜

忽有鴈聲呼我起

秋風吹送遠鐘長

漫興

閉戶山齋寂幽居

弄白雲世邊何所

問吾道有斯文

成美稿

秋夜有感

古堂夢残りて孤牀冷たし

曉月来りて照らす坐上の霜

忽ち鴈声ありて我を呼び起こす

秋風吹き送りて遠鐘長し

漫興

戸を閉ざし山齋寂なり 幽居

白雲を弄う 世邊何所に

問う 吾道は斯文にあり

成美稿

【語釈】

附鳳の詩

曩：先の、以前の意味から祖先を意味する。叔：叔父

一律を賦す：一編の律詩を作る。林壑：林や谷

栖禪に倚す：静かに物事に集中できる住みかたにふさわしい。

籀文：竹を綴った書物、竹簡。草聖：書を巧みに書く人。

雲煙：書画の墨色や筆跡が鮮やかなこと。瓊琚：美しい玉、転じてよき贈り物。

成美の詩

孤牀：牀は床の本字。寝台。孤牀は一人寝の意。

漫興：何となく興を催すこと、杜甫や李夢陽などにも同題の詩がある。山齋：山中の休憩のための小屋、山荘。幽居：人を避

け引きこもって暮らすこと。斯文：学問、儒教。